

地域企業の実態、調べて発表

パソコンソフトの「ワード」や「エクセル」などの能力を証明する国際資格の「マイクロソフト・オフィス・スペシャリスト」(MOS)。8月に米サンディエゴで開催されるMOS世界学生大会の「パワーポイント」部門に、日本代表として出場する。

静岡大情報学部(浜松市中区)の情報社会学科に通う3年生。愛知県小牧市出身で、パソコンの技能を身につけようと同大へ進学した。高校ま

PCソフト能力の世界大会代表
川合 裕太さん(20)

では「家族の共用パソコンでインターネットをする程度で、パソコンはほとんど使えなかった」という。

パワーポイントは、プレゼンテーション用のソフト。昨冬に受けたMOS試験で高成績を取め、小論文と大学での成績、面接試験を経て4月下旬、代表に選ばれた。「まさか、自分が選ばれるとは思ってもしなかった」

大学では、浜松市内の中小企業の実態調査に取り組んでいる。「リーマン・ショックや東日本大震災で、地域にどんな影響があったのかを調べたい」。同級生3人でチームを組み、市内の金型メーカーや自動車部品会社の経営者らを訪ねて聞き取りし、プレゼンする計画だ。「調査しながら、社会をデザインする仕事がしたい」と将来に思いをはせる。

世界大会本番は8月1、2日。出題範囲が通常の試験よりも広がるといい、大学の授業と塾講師のアルバイトの合間を縫って、1日5～6時間パソコンに向かう毎日だ。

「両親を始め、勉強に専念できる環境を作ってくれた周囲の人たちに感謝し、悔いの残らないようベストを尽くしたい」(滝沢隆史)

人・ひと

